

1 月定例教育委員会会議録

開催日時 令和2年1月21日（火）
午後2時～午後3時15分

開催場所 県庁新館4階教育委員会室

出席委員	教育長	福永 忠克
	委員（教育長職務代理者）	土井 真一
	委員	藤田 義嗣
	委員	岡崎 正彦
	委員	窪田 知子
	委員	野村 早苗

1 開 会

- 教育長から開会の宣告があった。
- 教育長から出席者の確認があり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、会議の成立が確認された。
- 事務局から出席者の報告があった。

2 非公開事件の確認

- 教育長から、本日の議題のうち、第47号議案から第50号議案までの4議案については、令和2年2月県議会定例会議に提出する前の未成熟な議案であることから、審議を非公開とすべきとの発議があった。発議は全員異議なく了承され、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、第47号議案から第50号議案までの4議案の審議が非公開とされることとなった。また、審議の順番については、報告

事項、非公開議案の順で審議することが確認された。

3 会議録確認

- 12月24日開催の定例教育委員会に係る会議録について、適正に記録されていることを確認し、承認された。

4 報 告（公開：報告事項）

- 教育長から、報告事項ア「令和2年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査結果について」、事務局に説明を求め、事務局から資料に基づき説明があった。

- 主な質疑・意見

- 藤田委員 卒業できなかつたり進学できなかつたりする生徒はいるのか。
- 高校再編室長 入学から卒業までの間に、進路変更によって学校を辞めたり、また在学期間を変更したりする生徒はいる。
- 岡崎委員 工業学科の志望倍率は、昨年より下がっているが、近年の傾向はどうか。また、県内の全日制の私立学校の志望倍率はどのような傾向か。
- 高校再編室長 工業学科の志望倍率について、例えば彦根工業高校や八幡工業高校をみると、近年の傾向としては、横ばいかやや落ちている。年によって多少の上下はあるが、倍率が1.0を超えることは少ない。
また私立学校の志望倍率は、昨年度から0.1ポイント増えているが、近年少しずつ増えている状況である。

- 岡崎委員 今年の高校生の就職はどのような状況か。
- 高校教育課参事 学校からは、求人倍率は良く、売り手市場であると聞いている
- 教育長から、報告事項イ「国の文化審議会が新たに無形民俗文化財に指定等するように答申した案件について」、事務局に説明を求め、事務局から資料に基づき説明があった。
- 主な質疑・意見
- 藤田委員 指定されることによって、補助金を受けられるのか。
- 文化財保護課長 「指定」については、補助金の対象になっている。一方、「選択」についても、記録等をするための調査については補助が認められる。
- 藤田委員 地域のお祭り等を維持していくのは大変であるので、こういう形で補助が認められて、維持につながっていくと良いと思う。
- 岡崎委員 選択されたお祭りについては、毎年県に何かしらの報告する必要があるのか。
- 文化財保護課長 「記録等の措置」は、例えば祭りが時代の変化の中で変わってしまうとか、継承する人がいなくなってしまう前に、文書や映像で記録を残していこうとするもので、必ずしも報告は必要なものではない。
調査の結果、その価値が評価されれば、指定につながっていく可能性はある。
- 教育長から、報告事項ウ「『読み解く力』の育成に重点をおいた児童生徒が学びを実感できる授業づくりに係るリーフレットについて」、事務局

に説明を求め、事務局から資料に基づき説明があった。

● 主な質疑・意見

- 藤田委員

読み解く力の育成は、現代において大変重要な教育課題であるが、文章を読み解くには、基本となる基礎知識に加えて想像力が必要であると思う。同程度の知識を持っている者でも、想像力の差によって、読み解く力にも差が出ると思うので、そうした視点があると良いと思う。
- 幼小中教育課長

学ぶ力向上滋賀プランの第2期目ということで、全ての学校が、授業づくり、集団づくり、人づくりの三つの視点の中で、読み解く力を中心とに取り組み、まずは基礎的・基本的な知識や技能の定着が大事だと考えている。

そうしたことや基本的な生活習慣、一人ひとり子どもをしっかりと見て、個に応じた支援をしていくといったような視点は、「取組の重点」の中でしっかり学校に発信をしていきたい。
- 藤田委員

想像力を生かすには、ICTの活用は有効である。

知識と想像力の相関関係の中で、人間力はできていき、その中で読み解く力が必要とされると思う。
- 土井委員

中学校の数学の事例の「8. 問題2について考える。」について、その指導方法はどのようなものか。ペアで交流があるのか。
- 幼小中教育課参事

主に5、6のところではペアで交流をしている。8のところでは、係数がプラスからマイナスに変わるので、5、6で学んだことと8での課題を結合させ、少しペアでの交流もしながら、改めて読み解いていく。

○ 土井委員

子どもたちの学力によっては、先にグラフを提示しないと難しいこともあるかもしれないが、グラフで読み解き、議論させるのであれば、グラフを書かせる方が良いと思う。西に行く人が出てきたときに、どうグラフを書くかを考え、議論する方がおもしろい。

また、中学校の英語の事例について、基本的には外国の英文のウェブサイトを見て、英語で書くという構図であると思うが、読み解くというのはどこをポイントにされているのか。

○ 幼小中教育課長

「1. Input」について、通常は目標のところでは、読み解くというのは余り関係ないが、英語の授業であるので、英語でねらいを説明することで、何が必要な情報なのか、何をしなければならないかということを理解することが入っている。

「2. Input⇔Intake」のところでは、英文を作成するに当たって、教科書に提示されているモデル文だけでなく、海外のウェブサイトを実際に見て、どういう表現を使ったらいいかとかを読み解いていく。目的に応じて、どういう表現を使ったらいいかっていうことを引き出していく。

「3. Intake⇔Output」のところでは、まずは自分である程度作成した上で、グループでのやりとりを通じて、ねらいに沿った発信内容となっているかを議論していく。その中で、他の人の意見を聞いて、より良いものに再構築していく。

右上にある読み解く力のイメージ図において、左の「A. 文書や図、グラフ」から読み解くについては、①から③全てのプロセスにもチェックが入っており、右側の「B. 他者とのやりとり」から読み解くについては、グループでの交流を通じて、自分の作成した文書を見直し、改めて整理するという意味で、②のプロセスにチェックが入っている。